



●事務局体制

東京事務所
伊藤多栄子、岩本宗孝、佐谷隆一、ゾリグト・アズザヤ、
能智和美、野村政道、眞栄城好香、吉岡健治、渡辺悠斗
ブノンペン事務所
辰川はる奈、水野泰晴*、バン・ラス、マオ・カナリン、
ノウ・チャンタ、スレン・キムヘン、ヒム・サヴィー

- ◆ブノンペン事務所 ハン・ソダ職員が2023年4月30日付で退職。
- ◆ブノンペン事務所 水野泰晴職員が2023年5月23日付で入職。
- ◆ブノンペン事務所 山岸真喜子職員が2023年5月31日付で退職。

●今後のイベント

2023年 10/8 (日) 12:00～14:00
JHP30周年記念祝賀会
@ ホテルメルパルク横浜
※上記以外のイベントを開催する際は、
ホームページやメルマガでお知らせします。

／ 編集後記

今回は、JHP30周年記念号として盛りだくさんな構成となりました。多くの皆様からご協力をいただき、積み重ねてきた活動が確実にカンボジア・ネパールの子ども達の未来の可能性を広げることに繋がっていることを実感します。30周年の節目の年、感謝の想いを力に、更に飛躍の1年としていきます！（編集事務局）

＊お米一合運動キャンペーン＊ 活動のご報告

JHPでは、新型コロナウイルス深刻化による収入減で困窮が深まり、毎日の食事に困っている「ひとり親世帯を対象に、コロナ禍の食支援として「お米一合運動*」に参加してきました。

＊お米を無償でご提供いただく支援活動です

- ◆2021年3月～2023年3月までのご支援◆
- ◇お米現物：3,550kg
- ◇支援金：1,450,540円
- ◇参加者：延べ356名（個人・団体含む）

2年間で多くの方からのご賛同・ご支援をいただきました。これまでにご支援頂いた皆さま、誠にありがとうございます。お米を受け取った、ひとり親世帯のお母さんからは、「子どもたちの主食の心配がなくなりました。ありがとうございます。」との感謝の声が寄せられています。

このキャンペーンは、2023年3月末を持って一旦区切りとさせていただきますことになりました。改めまして、ご賛同下さった皆さまにお礼申し上げます。 認定NPO法人 JHP・学校をつくる会



会費支払

当会の活動は皆様からの会費・寄付で成り立っています。JHPニュースと活動記録集は会員の皆様にお送りしています。
・年会費：一般会員5千円、学生会員3千円、特別会員5万円
・上記それぞれ「正会員」・「賛助会員」が選択いただけます
◆「正会員」：定例総会や臨時総会の出席資格、議決権を持てます
会費は控除の対象にはなりません
◆「賛助会員」：定例総会や臨時総会に出席できますが、議決権を持てません
会費は寄付と同様に税法上所得控除の対象となります

口座名：特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会
郵便口座：00110-4-356264
銀行口座：みずほ銀行赤坂支店 普通 1844676

- ※会費期限切れの方は更新手続きをお願いいたします。
- ※期限前の支払いも可能です。
- ※郵便口座からの自動引落も可能です。ご希望の方はご連絡下さい。
- ※銀行振込ご利用の際は、連絡先確認のためご連絡をお願いします。
- ※転居された際は新住所をお知らせ下さい。

JHPのホームページから、クレジットカードで会費・寄付金の
お支払いができます！



～モノで寄付～ ＊「買取大吉」からご支援が可能に＊

この度JHPは、従来から皆様にご利用頂いている「お宝エイド」に加え、「買取大吉モノ募金*」の寄付団体となりました。

＊買取大吉様による「モノ」を現金化して寄付する寄付プログラムです。



寄付先としてJHPを選んで出張買取サービスにお申込みいただくと、査定金額＋買取大吉から10%上乗せの金額が、JHPへ寄付されます。

査定員がご自宅へ派遣される出張買取サービスのため、小さなお子様がいるご家庭やご年配の方など外出に抵抗がある方にも気軽にご利用いただけます。

また、物品を宅配で送る必要がないので、サイズの大きなものや割れ物のように梱包が難しいものにもご利用いただけます。

「買取大吉モノ募金」を通じての
温かいご支援をお待ちしております。



お申込みの
詳細はこちら▶

「JHPニュース Vol.82」(2023年8月号)

発行元：認定NPO法人 JHP・学校をつくる会
発行人：小山内美江子
編集人：眞栄城好香
〒108-0014 東京都港区芝5-14-2
鈴木ビル2階
TEL: 03-6435-0812



JHP Special supporter

新たに学校校舎 1 棟 5 教室の ご支援をいただきました

この度、JHPスポンサーの藤原紀香さんと、ご自身が代表を務めるSmile Please (スマイルプリーズ) 様のご支援により、カンボジア・スバイルエン州にて、新たに建設された学校校舎の贈呈式が行われました。

藤原紀香さんとSmile Pleaseの皆様は、6月17日～19日にかけて、カンボジアに訪問され、これまでにご支援いただいた学校3校を訪問、現地の子どもたちや先生との交流の時間も持つことができました。

学校訪問の様子と贈呈式の様子をお届けします！

メーサン小学校訪問

ワットトゥールティエット小学校訪問

プレイトロー小学校訪問

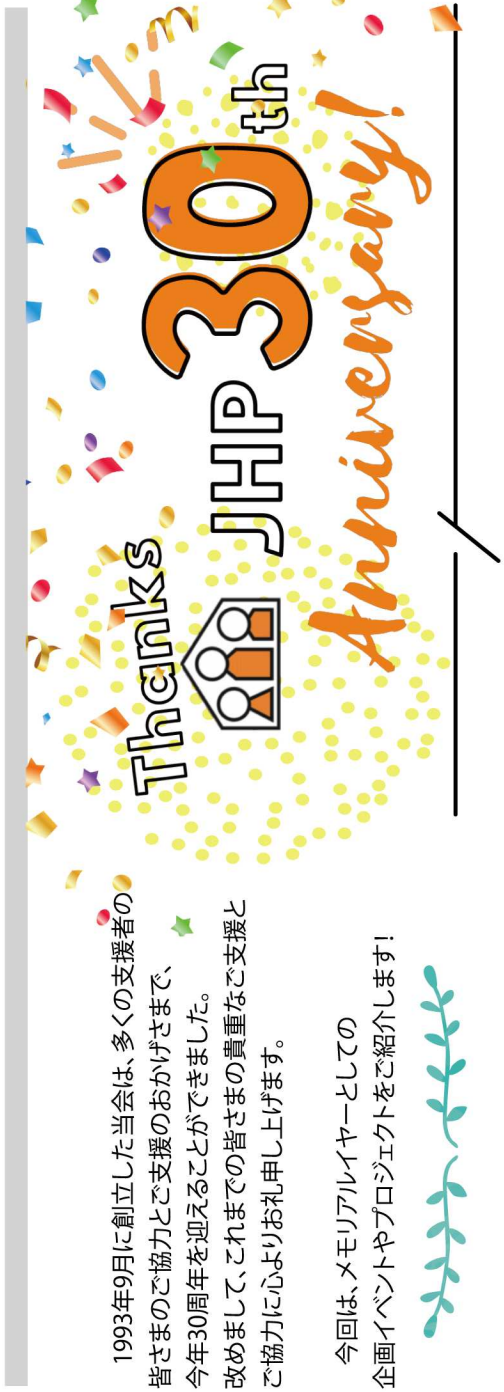


メーサン小学校を訪問した際には、学校建設支援をした当時学生だったソフィアさんが、現在母校で先生となった姿で、今回再会を果たすことができ、ご支援が確実にカンボジアの子どもたちの将来に繋がっていると実感できた感動の時間となりました。

学校の贈呈式当日は、子どもたちと保護者の方々、先生方、村長、コミュニティ関係者を含む900名が集い盛大に開催されました。新校舎には、真新しい机・椅子はもちろん、天井には教室内の空気を循環させ涼しくするファンが設置されています。贈呈式スピーチの時間には、藤原紀香さんや新校舎の共同支援者である(株)ロジコム様、(株)平和鋼材様から、「新しい校舎で一生懸命に学び、将来ぜひカンボジアと日本を繋ぐ架け橋になって欲しい。掃除をする習慣も大事にして、豊かな人格を磨いてください!」と熱いメッセージが贈られました。



新しい教室の椅子に座り、文具のプレゼントを受け取った子どもたちは、嬉しそうなる表情を浮かべていました。カンボジアの子どもたちへの温かいご支援に、心より感謝申し上げます。贈呈式に参列した生徒たちに将来の夢を聞くと、皆夢があり、「国語の先生になりたい!」と答える子もいました。蒔かれた種が実を結び、将来大きく花を咲かせる日を願ってやみません。



1993年9月に創立した当会は、多くの支援者の皆さまのご協力とご支援のおかげさまで、今年30周年を迎えることができました。改めて、これまでの皆さまの貴重なご支援とご協力に心よりお礼申し上げます。

今回は、メモリアルイヤーとしての企画イベントやプロジェクトをご紹介します！



JHP30周年記念祝賀会開催します！

本年度、JHPが創立30周年を迎えるにあたり、それを記念する祝賀会を以下の要領で開催することになりました。多くの皆様にご来場いただければ幸いです。

日時：2023年10月8日（日）PM 12:00～14:00

場所：ホテルメルパルク横浜（横浜マリンタワー隣「元町・中華街駅」より徒歩3分）
お問合せ ▷ TEL:03-6435-0812 MAIL: tokyo-office@jhp.or.jp

4年振り！カンボジア体験ボランティア開催

コロナ禍で、今年4年振りに開催する『カンボジア体験ボランティア』。

海外や国際情勢に関心のある社会人と大学生が集まり、総勢16名でカンボジアへ訪問します。

8月20日～28日の8日間で、小学校の校庭でのブランコ建設や、子どもたちとの交流、現地NGOや国際機関等の見学、プンペン市内や近郊の見学を行います。

現地の活動の様子は、JHPのSNSでも発信しますので、楽しみに！

組織基盤強化の取り組み

JHPIは、2023年度パナソニックホールディングス株式会社が実施する『Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs』に採択されました。このファンドは、世界的な社会課題である「貧困の解消」に向けて取り組むNPO/NGOを対象に、持続発展的に社会変革に取り組めるよう、8ヶ月間の取り組みに100万円の助成をするものです。

JHPIは現在、NPO/NGO組織基盤強化コンサルタントの河合将生氏とともに、JHPが30年間で積み重ね、生み出してきた価値はもちろん、組織課題を分析し、具体的な組織運営の課題解決や、今後の組織基盤強化に向けた取り組みを行っています。

創立30周年記念 高木凛々子チャリティーコンサート開催

「カンボジアの子ども達へ音楽の楽しさを届けたい!」という想いから始まったこのチャリティーコンサートは、第18回目となる今年、7月29日（土）浜離宮朝日ホールにて開催されました。今年も数々の国内外オケストラと共演する若手注目ヴァイオリニスト高木凛々子さん、ピアニストの五十嵐薫子さんにご出演いただき、クラシックから日本の曲までを含む計11曲の息の合った演奏のほか、30周年記念特別企画として、「子ども達に音楽の楽しさを届けたい」という想いで小学校でのクラシック演奏活動を続けていらっしゃる高木さんへお話を聞くショートインタビューの時間もありました。

当日は約430名の方がご来場下さり、素晴らしい演奏とチャリティー活動に参加できて良かったとお声を多数いただきました。

◇カンボジア音楽教育ご寄付総額◇
181,696円



成人のための識字教育

Literacy class



第4期 識字クラス98名が識字者に！

2022年9月にスタートした第4期目の識字クラスは、8か月間のコースを終え、2023年5月に閉講式を迎えました。

第4期識字クラス

- 開講地：コンポンチャム州 バティエ郡 サンダエックコミュニティ内にある4村(ブノンペン都から約80km)
- 受講人数：100名 (各村25名)
- 開講日/時間：月曜から土曜 午後18時～20時
- カウンターパート：6名 (スーパーバイザー1名、アシスタントスーパーバイザー1名、識字教員4名)

受講生の8割は女性であり、幼少期に内戦や貧困が原因で十分な教育を受けることができなかった人々です。クラス修了後、受講生にインタビューを実施しました。



ストラン村 在住
セック・ウィさん(52歳)

私はボルボト時代に幼少期を過ごし、ボルボト政権が打倒された後、お寺で僧侶から勉強を教わっていました。文具等はなく、石炭を鉛筆代わりに、葉っぱをノート代わりに使用していました。しかしながら、内戦が激化し、通うことができなくなり途中退学を余技なくされ、読み、書き、計算ができずに今日まで生活をしてきました。読み、書きができないと生活は不便であり、市場で騙されたこともあります。日雇いや低賃金の仕事しかなく、家族を養うことにとても苦労しました。この識字クラスに参加し、いい先生に出会うことができ、8か月間頑張っ通い、今は読み、書き、計算をすることができるようになりました。私は小売業をしているのですが、正しいお釣りを渡すことができ、お客さんとコミュニケーションも楽しくことができるようになりました。

経済発展が著しくIT化が加速するブノンペン都とは異なり、当該事業地は今にも崩れ落ちそうな家々が立ち並び、9割の人々が雨水や井戸水を生活用水として使用しながら生活しています。カンボジアでは都市部と農村部の格差はより一層拡大しており、「誰一人取り残されない」社会の実現のため、誰もが力を合わせて取り組むことが重要となってきました。

第4期識字クラスが皆様からの温かいご支援、ご協力をいただき、閉講することができました。第5期の識字クラスは8月開始を予定しています。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



写真A

カンボジア学校建設

支援いただいた校舎は大切に使われています



休み時間の生徒たちの様子



写真B



写真C

教室内の壁は、学年によって違いますが、クメール語の文字や動物の絵と名前などのポスターが貼られています。(写真A：この教室は、人体解剖図が貼られていました)写真Bのように、廊下や校庭も掃除が行き届いており、写真Cの学校の校庭は当初かみかひどい状態だったため、そのまま靴で上ると室内が泥で汚れてしまうことから、学校建設時にコンクリート敷に土を被せる整備を行いました。そのおかげで校舎も校庭も綺麗に保たれています。訪問した学校はどの校舎も大切に使われている印象を受けました。

まだまだ必要とされるカンボジアの学校校舎



写真1



写真2

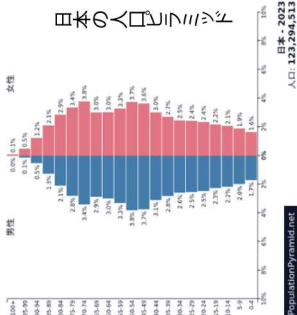
カンボジア政府及び国際NGO等の援助により、カンボジアの教育環境は改善されつつありますが、2023年現在第2次ベブームの影響を受け、都市部含む各学校では慢性的な教室不足が続いており、生徒が過密な環境で学んでいたり、正規の時間数が学べない等の弊害が出ています。(写真1、2)

深刻な教室・教員不足のため、大部分の公立小学校の生徒達は1日4時間、午前、または午後のみ授業を受けており、学校で学習する時間数は他国と比べ圧倒的に少なく、学習の遅れが顕著です。

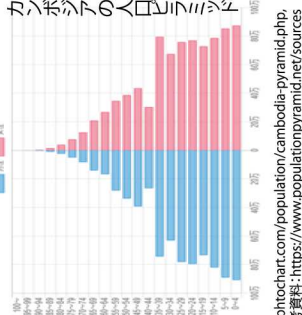
カンボジア政府は近い将来全校で午前・午後の両方授業を受けることができるよう、教育環境の整備に取り組んでおり、2023年度は国家予算の約10%を教育に注ぐことを予定していますが、子どもの数の急増に追いついておらず、実現には年月を要することが推察されます。皆様のご寄付はカンボジアが抱える深刻な教育課題の解決に直接的に寄与いたします。

今後も温かいご支援の程、よろしくお願いたします。

写真1：生徒数の増加により教室が足りず、校舎欄に一時的に増築された校舎で授業を受ける生徒達（スワイリン州）
写真2：過密な状態で授業を受ける生徒達（トゥラウモム州）



日本の人口ピラミッド



カンボジアの人口ピラミッド

カンボジアの人口ピラミッド参考資料: <https://graphichart.com/population/cambodia-pyramid.php>
日本の人口ピラミッド参考資料: <https://www.populationpyramid.net/sources>

JICA草の根技術協力事業

『カンボジアの子どもたちに音楽と美術の楽しさを』

カンボジア全土での芸術教育普及に向けたプロジェクトが完了！

タケオ州でのパイロットプロジェクトが遂に完了！

カンボジア全土への芸術教育普及を目指し、モデル地域であるタケオ州の小学校4校の先生への教員研修の実施、研修を受けた先生方の授業実践を元にした教科書・指導書のブラッシュアップをこれまで継続的に行ってきました。

11月～4月までの活動の様子をお届けします。

11月には、4学年から6学年向けの指導内容についての

教員研修会がタケオ州教育局を会場に開催されました。

美術・音楽それぞれ4日間の日程では、ナショナルトレーナーからの講義・模擬授業実践を児童役として体験する活動、グループに分かれて指導案作りと模擬授業実践する活動等を行いました。

州教育局・郡教育局の職員や先生方は、作品づくりや鍵盤ハーモニカの練習に熱心に取り組んでいました。



ナショナルトレーナーから音楽指導を受ける先生たち

1月にはナショナルトレーナー対象の鑑賞教育指導法研修会を開催しました。

児童が思考力、判断力、表現力を発揮できる授業づくりを目指し、ブロンベン教員養成大学では日本の鑑賞教育の指導法を学んでもらい、CCHでは児童の前に授業実践をしてもらいました。



鑑賞の授業実践をするナショナルトレーナー

2月には、タケオ州対象4校の授業観察を行いました。先生方は割り当てられた授業に対し準備をし、一生懸命指導をしていました。ナショナルトレーナーや教育局の職員はその授業を評価し、観察後の協議では第二版の教科書・指導書の改訂点についても話し合われました。



指導した内容を授業に活かしている、タケオ州の4校でモニタリングを行いました



4月には、更なる先生方の指導力の向上を目的に、

タケオ州にて教員向けフォローアップ研修を開催しました。

対象の4校を2グループに分け、小学校を会場に参加者は美術と音楽それぞれ2日間ずつ計4日間の日程に参加しました。

ナショナルトレーナーはこれまでの研修や授業観察の結果を鑑みて、指導法の講義や模擬授業を準備しました。

また、参加した先生方による模擬授業も行われました。少人数で行われた研修は、参加者から多くの質問や感想が出て、ナショナルトレーナーもそれに対し丁寧に答えていました。



工作の模擬授業を体験する先生たち(題材:動くいもむし)

タケオ州でのパイロット事業はこれで終了となりますが、この結果を第二版の教科書・指導書の改訂につなげるとともに、タケオ州の先生方との協力体制も続けていきたいと思います。

カンボジア全土へ芸術教育を広げていくための今後の活動にもご注目ください。

／初等科芸術教育支援事業スタッフ

インタビュー第3弾をお届けします！／

Special Interview Vol.3



音楽教育分野 担当
Mao Canarinn
マオ・カナリン

主に音楽教育の分野を担当しました

◆勤務歴:17年
◆初等科芸術教育支援事業にて主に音楽教育の分野を担当。

01 JHPで働き始める前(または、芸術教育支援事業に取り組む前)に芸術教育について持っていたイメージを教えてください。

『いつれ芸術教育が他の教科と同じように、全ての公立学校の国定のカリキュラムとして教えたり学んだりできるようになる必要性があると感じていました。』

02 芸術教育事業を経て、持っているイメージは変わりましたか？変わった場合は、どんなところが変わりましたか？

『はい、変わりました。この芸術教育事業では、カリキュラムの中に、ダンス・演劇・音楽・絵画・彫刻といった創造的な活動を取り入れており、生徒たちの内外両面のスキルを成長させることができます。』

私が小学校の時に芸術の授業を受けることができたのは、ほんのわずかな時間だけでしたが、16年以上JHPに勤めてそうした創造的な芸術教育活動が、生徒たちにとってとても大切であるということが分かりました。』

03 子どもの時に受ける芸術教育の大切さをどのように感じていますか？

『音楽の授業で歌詞を読んだり、美術の授業で絵を描いたりすることは、算数や言語のスキルにも繋がり、他の教科の学びとも連携することができます。』

また、合奏・合唱・演劇といった音楽活動は、友だちやクラスメートとの協調性を育むことに繋がったり、絵を描くことを通して、注意力・集中力を高めることができます。』

これらは一例ですが、子ども達が学校で芸術教育を受けることの重要性をとっても感じています。』

04 芸術教育支援事業の実施中、良かったこと、大変だったこと、やりがいを感じたことは何ですか？

◆良かったこと:

『芸術教育の重要性に気付くことができたこと他にも、教育省の大臣レベルの方が芸術教科についての考え方を変え始めてくれたことです。他の教科と同じように、芸術教科が社会科から切り離され、単独教科として独立しました。』

◆大変だったこと:

『芸術教育支援事業を進める上で、コロナの流行が大きな壁となり活動の続行が難しかった時期があり、その時は大変でした。』

◆やりがいを感じたこと:

『この事業を通して、音楽の教科書と指導書を作成する貴重な経験を得ることができたことです。』

05 読者へ一言メッセージ

『カンボジアは、内戦が終わって30年が過ぎたと言っても、様々なインフラや施設が発展途上で、それは教育分野についても言えることです。そのため、皆さまからいただいた貴重なご支援は、カンボジアの子どもたちのための施設建設や芸術教育として、カンボジア国内でも大きな役割を果たしています。』

ぜひ一度、カンボジアの子ども達の元氣に学ぶ姿を見にお越しください。』





ネパール学校建設

ネパールの最新活動報告

2022年11月に行われた学校贈呈式の際に、並行して実施した建設候補校調査を経て、2023年度は、現在2校の建設を予定しております。

その内の1校の建設プロジェクトが、2023年3月26日にスタートしました。その日には、地域住民の皆様が出席され、基礎工事の掘削前には、地域住民のみならず、教員や生徒が伝統的な儀式を実施しました。この儀式は、建設途中や建設後に障害となる事柄を除去できると強く信じられています。地域の人々が共通の目標に向かって共に活動する姿は本当に素晴らしいです。新しい校舎が生徒のためにより良い学習環境をもたらし、教育の質を改善に大いに貢献することが期待されます。

建設作業はスムーズに進んでおります。5月は暑い上に湿度が高く、最高気温は42℃に達していましたが、それでも現地スタッフ並びに作業員の方々は懸命に作業に励んでいました。

6月は雨と厳しい暑さに負けず、1階屋根部分の雨戸と鉄骨の補強作業が進み、床の構築作業は、ほぼ完成しました。

8月には2階のコンクリート屋根工事が予定されていますが、モンスーンの開始により建設の進行を妨げる恐れがあります。引き続き、スタッフ一同完成に向けて尽力してまいります。

CCH 今後の支援体制について

皆様におかれましては、CCHの活動に御理解いただきまして、誠にありがとうございます。

この度、カンボジア政府が新たな方針として、児童養護施設の機能を廃止する方向で進めています。

政府の方針を受け、CCHは2023年9月を持って児童養護施設としての機能を閉じた後、10月以降は学校運営を中心とした施設として活動することとなりました。

CCHのソカ所長とJHPスタッフで今後の支援内容について協議した結果、2023年度の活動計画は下記の通りとなります。



info

2023年9月までは、これまで通り、CCHの運営費、教材、生活用品等を支援する。

2023年10月以降は、高校を卒業した青年に対して、CCHから大学進学のための奨学金の一部支援を実施する。

奨学金の一部支援を通して、カンボジア社会の発展に貢献する人材を育成することを目標としています。支援体制は10月より変更となりますが、今後とも、CCH事業への温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2023
2月

CAP Arts Festival 2023
3年振り開催！



CAPは、2015年からCCH小学校とJHPが協力して行っている活動の1つで、子どもたちが芸術に親しむことを目的とした活動を行っています。子どもたちは芸術に関する感性を身につけ、自分自身の気持ちや個性、主張について様々な活動を通して学びます。

3年ぶりの開催となった今年のCAPフェスティバルは、芸術活動を通して子どもたちの創造性と感受性を育むことの価値と大切さを、広く知ってもらう事を目的として行われました。

ダンスの発表

5つのグループに分かれて発表しました。最後に上級生が発表したソーラン節は、下級生も掛け声や振付を真似して楽しんでいました。

鍵盤ハーモニカの演奏

音楽ファシリテーターのサンダリン先生からの指導の下練習してきた成果を発表しました。年齢別グループに分かれ、3曲披露しました。自信をもって発表する姿がとてよかったです。

来場者参加型ワークショップ

当日に参加したCCHに通う児童や保護者に、工作を体験してもらいました。子どもたちは、先生になったつもりで熱心に作り方を教えていました。

作品展示

普段の活動で作成した作品を、展示しました。当日は強風の中での展示となり、作品が風に飛ばされてしまうハプニングもありましたが、子どもたちは自分の作品を嬉しそうに保護者に紹介していました。